

基本施策10 高齢期の充実した生活への支援

【施策統括課:高齢者支援課

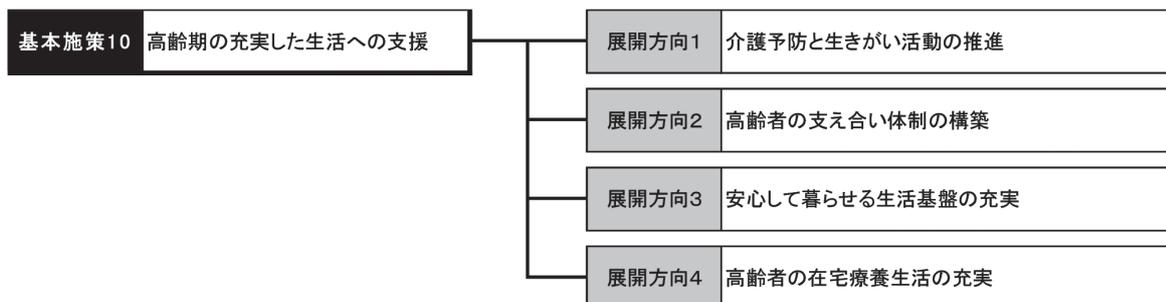
主な関係課:地域包括ケア推進担当、健康づくり担当、福祉総務課】

<現状と課題>

- 高齢化の進展に伴って認知症高齢者や単身高齢者の増加が予測される中、国では、団塊の世代の全てが75歳以上となる令和7(2025)年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していくとしています。
- これにより、各市区町村では令和7(2025)年に向けて、3年ごとの介護保険事業計画の策定・実施を通じ、地域の自主性や主体性に基つき、地域の特性に応じた地域包括ケアシステムを構築することが求められています。
- 日本の総人口は減少を続けているにもかかわらず、65歳以上の高齢者人口は増加しており、令和7(2025)年時点での高齢化率は30.3%になると推計されています。東京都においても、上昇は緩やかであるものの同様に傾向にあり、令和7(2025)年には高齢化率が25.2%まで上昇すると推計されています。また、必要な社会サービス基盤が整わない地方からの高齢者の流入も考慮する必要性も指摘されています。
- 国立市における高齢者人口は、平成23(2011)年1月1日で1万4,178人であったものが令和元(2017)年7月1日現在では1万7,590人となり、令和8(2026)年1月1日時点での推計は1万8,434人と推計されています。
- 今後、高齢になっても、地域活動への参加や生きがい就労を通じて、元気で健康的な生活を送り、地域社会を支える一員としていきいきと活躍できるような環境を整えていくことが求められます。そのためには、シルバー人材センターをはじめとする関係機関との連携を強化しつつ、住民主体の取組を支援することで社会参加の機会の拡大を図る必要があります。
- また、高齢者が自ら介護予防に努めるとともに、病気や認知症になっても、住み慣れた地域で、尊厳を保ちながら暮らし続けることができるよう、地域包括ケアシステムの推進に向けた取組を計画的に推進する必要があります。

<施策の目的及び体系>

高齢者が生きがいを持ち、地域社会を支える一員としていきいきと活躍できるように環境を整えるとともに、病気や認知症になっても住み慣れた地域で最後まで安心して暮らせるまちを目指します。



<展開方向1：介護予防と生きがい活動の推進>

【目的】

高齢者が自らの健康管理に努め、予防的な観点を生活に取り入れながら、いきいきと暮らせるように支援します。

【手段】

- ◆元気な高齢者も対象とした生きがい活動ともなる事業を中心に、介護予防事業を推進します。
- ◆高齢期の生活や健康の保持について学びあうことができる環境を整えます。
- ◆高齢者のサロン活動や生きがい就労を支援します。
- ◆高齢者自らが主体となった介護予防活動を推進し、フレイル(虚弱)を防止します。
- ◆地域の集いの場の創出を支援し、高齢者の社会参加を促します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値(KPI)	
				2023年	2027年
75歳以上の要介護認定率	%	75歳以上の要支援・要介護認定者数/75歳以上高齢者数	34.0 (2018年)	33.5	33.1
自主活動グループ数(活動場所)	箇所	市が把握する高齢者の自主活動グループ数	122 (2018年)	127	131

<展開方向2:高齢者の支え合い体制の構築>

【目的】

高齢者の孤立を防止し、社会参加を通じて、つながりのある支え合い体制を構築します。

【手段】

- ◆高齢者の見守り活動等により、元気な高齢者が、周り的高齢者を支える仕組みづくりを推進します。
- ◆生活支援の基盤としてのシルバー人材センターとの連携を強化します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値 (KPI)	
				2023年	2027年
高齢者の就労率	%	日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(収入のある就労者/調査回答者数)	21.3 (2016年)	24.3 (2022)	25.8 (2025)
高齢者の社会参加率	%	日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(見守り支援活動参加者数/調査回答者数)	7.6 (2014年)	15.6 (2022)	17.6 (2025)
孤立化のリスクが高い高齢者の割合	%	日常生活圏域ニーズ調査の抽出数(閉じこもりリスクのある高齢者数/調査回答者数)	6.5 (2014年)	5.7 (2022)	5.4 (2025)

<展開方向3:安心して暮らせる生活基盤の充実>

【目的】

高齢者やその家族が安心して生活できるよう支援します。

【手段】

- ◆生活、介護、医療等の相談を総合的に受け、きちんと支援につながるようきめ細やかに対応します。
- ◆高齢者の生活に関わる意思決定を本人が行えるよう支援します。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値 (KPI)	
				2023年	2027年
高齢者からの新規相談対応件数	件	同左	3,987 (2018年)	4,087	4,167
市が高齢者の相談や支援を充分に行っていると思う市民の割合	%	国立市市民意識調査	25.5 (2018年)	30.5	34.5

<展開方向4：高齢者の在宅療養生活の充実>

【目的】

加齢に伴い、病気や認知症になっても、安心して地域で暮らせるようにします。

【手段】

- ◆医療と介護、保健が連携した在宅療養の支援体制を整備します。
- ◆認知症の特徴や認知症の方への対応などについて市民へ周知・啓発を行うとともに、地域を巻き込んで日常生活を支える取り組みを進めます。

【展開方向の進捗状況を測定するための指標】

指標名	単位	指標の説明又は出典元	実績値	目標値(KPI)	
				2023年	2027年
要介護認定者のうち在宅で過ごす人の割合	%	施設未利用の要介護認定被保険者数／要介護認定被保険者数	82.3 (2018年)	84.8	86.8



公衆浴場を活用した介護予防事業「湯ったりウォーキング」